<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名</td><td>第４回記念式典検討部会</td></tr>
<tr><td colspan="2">日　　時</td><td>平成２４年１月２５日（水）　１４：００～１４：５０</td></tr>
<tr><td colspan="2">場　　所</td><td>田川市役所　４階　第２委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="9">出席
委員</td><td>記念式典討部会
（9/9 人）</td><td>１　出席委員
名和田　新　（代理：　　）部会長
高瀬　春美　（代理：　　）副部会長
森山　沾一　（代理：　　）
松岡　博文　（代理：　　）
佐渡　文夫　（代理：鶴我　正司）
藤春　秀徳　（代理：　　）
大宅　俊一　（代理：　　）
久永　　明　（代理：　　）
高尾　美津子（代理：　　）
２　欠席委員　　なし</td></tr>
<tr><td>田川市</td><td>伊藤事務局</td></tr>
<tr><td>総務部</td><td>犬丸総務部長</td></tr>
<tr><td>教育部</td><td>万田教育部長</td></tr>
<tr><td>総務課</td><td>日野課長、峯課長補佐、児島係長、嶋田主事（４名）</td></tr>
<tr><td>総合政策課</td><td>大峯課長、小川室長、古木主任（３名）</td></tr>
<tr><td>学校教育</td><td>籔亀小学校校長会代表、猪上中学校校長会会長（２名）</td></tr>
<tr><td>コ ン サ ル</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">内　　容</td><td>報告事項
第３回記念式典検討部会での主な意見について

協議事項
世界記憶遺産登録記念式典の開催計画について

その他
⑴　山本作兵衛氏の炭坑記録画～将来的な活用イメージ全体像案～について
⑵　今後のスケジュールについて</td></tr>
<tr><td colspan="3">概　要

１　開会

２　報告事項
第３回記念式典検討部会での主な意見について
事務局から一括説明
意見特になし</td></tr>
</table>

３　協議事項について
　世界記憶遺産登録記念式典の開催計画について
　事務局から一括説明
（委　員）　ジョイ・スプリンガー氏の出席については確認が取れているのか。
（事務局）　出席していただけるということで確認している。
（委　員）　来賓プロフィールはどこかに記載をするのか。
（事務局）　当日配布するパンフレットに記載する予定である。
（委　員）　開催内容中の検討委員会会長の部分は氏名を記載していただきたい。
（委　員）　小学生・中学生への作文の募集について、具体的な方法の説明と学校の意見をお聞きしたい。
（事務局）　作文の募集については了承している。
（事務局）　校長会を通して募集のお願いをしている。小学校９校、中学校８校からそれぞれ１人を選抜し、最終的に教育委員会で小学校１人、中学校１人の代表者を選出する予定である。年度内に完了する見込みである。
（委　員）　福岡県立大学学生の研究発表について、現在把握している情報としては社会貢献論演習及び公民教育法の科目において、山本作兵衛氏を題材とした取り組みが行われているということである。本式典の開催内容の確定を受けて、学内での協議及び調整が必要になる。発表の人数、方法については今後事務局と協議する必要がある。
（委　員）　マスコットキャラクター等の作成について説明をお願いしたい。
（事務局）　マスコットキャラクターについては、デザインを広く公募し、その決定の後、着ぐるみを作成し、記念式典に登場させる流れとなる。
　具体的なスケジュールとしては、１月末から募集を開始し、広報紙及び市ホームページへの掲載、学校等へのチラシ配布を行って周知を図る予定である。また、３月上旬に応募デザインの選考を行い、同月中旬に決定する予定である。キャラクターの名称の募集は、デザイン決定後４月から行う予定である。なお、キャラクター募集と並行して世界記憶遺産のロゴマークも募集する予定である。
（委　員）　募集の範囲はどこまでか。
（事務局）　広く全国に募集する予定である。
（委　員）　周知と募集についてはどのような方法を用いるのか。
（事務局）　小学校、中学校、福岡県立大学及びデザイン関係の学校に対して周知を行うとともに、ホームページを活用して全国への周知を図る予定である。
（委　員）　良いデザインを集めるために、全国への積極的な周知対策を講じていただきたい。
（委　員）　賞金は予定しているのか。
（事務局）　キャラクター、名称、ロゴマークそれぞれに賞金を予定している。
（委　員）　完成したマスコットキャラクターと着ぐるみについては、記念式典後の活用策を検討していただきたい。
（事務局）　他自治体の事例等の情報収集を行い、地域行事への活用等の方策を検討していきたい。
（委　員）　「画描きの作兵衛さん」の楽曲披露については具体的にどのように行うのか。また、その後のビデオ上映とはどのようなものか。

（事務局）　マスコットキャラクターの着ぐるみと田川創作炭坑節ＣＤＲ２１が共演して「画描きの作兵衛さん」の踊りを披露する形を想定している。
　ビデオ上映については現在石炭・歴史博物館で放映しているものを活用する予定である。
（委　員）　式典の周知や集客について、どのような方法とスケジュールで臨むのか。
（事務局）　本部会での決定を受けて、今後１月～２月で案内文書・依頼文書の発送、ポスター・チラシの設置等を行い、本格的に周知に取り組む予定である。
　また、ポスター・チラシについては、市内は商工会議所、商店街、学校及び地区公民館を中心に、市外は都道府県、関係自治体、民間企業及び人の集まる交流拠点を中心に配布と設置依頼を行う予定である。その他、広報紙や市ホームページを活用して周知を図る予定である。
（委　員）　ポスター・チラシ等の活用以外にも何か策を講じた方が良いと思われる。
（委　員）　共催・後援の依頼団体や出演団体にも呼び掛けてはどうか。
（事務局）　共催・後援の依頼団体等を中心とした各種団体への協力依頼は行う予定である。その他にも市職員の参加や、福岡県立大学学生の参加、小学校児童及び中学校生徒の参加、保護者の参加等について積極的に呼び掛けを行う予定である。
（委　員）　子どもたちには是非とも参加していただきたい。席を設ける等の対応もよいと思われる。
（委　員）　周知の相手や方法については、式典の趣旨に立ち返って検討していただきたい。
（委　員）　本式典の開催に向けて、周知や協力依頼の他にも重要な検討課題が複数ある。具体的には、「式典の進行や演出方法について」、「会場設営について」、「式典、アトラクション等の運営方法について」、「配布資料について」等様々なものが考えられるので、今後は具体的な中身の作り込みについて事務局と協議し、早い時期に次回の部会会議を設けて全体像を示すべきであると考える。

４　その他
⑴　山本作兵衛氏の炭坑記録画～将来的な活用イメージ全体像案～について
　事務局から一括説明
（委　員）　この資料は市が作成したものか。
（事務局）　総合コンサルタントである三菱総合研究所が作成したものである。
（委　員）　全体を通しての考え方になるが、世界記憶遺産の保存・活用や田川市の今後等に対する意見や要望についてのアンケートを記念式典で配布してはどうか。
（委　員）　非常に大切なことであると思われるので、検討をお願いしたい。
（委　員）　ビジターセンターとは何らかの建物を考えているのか。
（事務局）　ビジターセンターは機能としてのとらえ方であるので、現存する博物館にその機能を持たせるのか、機能を持った新たな施設を建設するのか、方法は様々であるので、今後検討していくものである。
（事務局）　ビジターセンターは訪問者をもてなす機能を持った場所であるから、世界記憶遺産の保存・活用の研究拠点であると同時に、更に教育の場、訪問者が楽しめる場といった様々な選択機能が必要であると考える。また、これについては田川地域、筑豊全体の振興発展のために自治体と連携し、筑豊の炭坑

の歴史を辿る仕組作りについても検討が必要であると考える。

（委　員）　田川への来訪者を呼び込み、受け入れる環境を整備することで、多くの方に田川に来ていただき、本来の歴史や文化を知っていただくことで、閉山から続く産炭地のマイナスイメージを払拭していく必要がある。その核としてのビジターセンターであると考える。

（委　員）　今年の４月から新体制になる福岡県立大学では、全世界の産炭地の大学との共同研究を行い、田川と山本作兵衛氏を全世界に発信していくことが、今後の計画の一つとして位置づけられているので、世界記憶遺産の保存・活用推進と共に取り組んでいきたい。

（委　員）　今後の地域活性化の方策として、フィルムコミッション（映画等の撮影場所誘致や撮影支援をする公的機関）の取組みについて田川市郡の自治体で検討していただきたい。先進地としては北九州市がある。

⑵　今後のスケジュールについて
事務局から一括説明
意見特になし

５　閉会

（事務局）　昨年末に韓国へ先進地視察に行かせていただいたが、韓国では世界記憶遺産について、国と民間の強い協力体制の下で取り組んでおり、特に近代史の分野について力を入れていることが分かった。全体を通して世界記憶遺産の保存・活用についての先進地であることが伺えた。

山本作兵衛氏の世界記憶遺産を、いかにして将来にわたって歴史を証明するものとして遺していくのかが我々の課題であると考える。また、田川市を含め世界の産炭地は近代の歴史に重要な役割を果たしたのであるから、国際的な関係性を研究し、世界に通じる田川、筑豊であるという位置づけを確立することが任務であると考える。

次回会議	日　時：平成２４年２月下旬 場　所：未定 内　容：未定